

# 世代間の縁を紡いでまちづくり

松江市古志原公民館

## 1 古志原公民館の概要

古志原地区は、松江市南東部の緩やかな丘陵地に位置し、戦後住宅地として発展した人口約 13,000 人、世帯数約 5,900 の地域である。少子高齢化が徐々に進行、小学生はピーク時約 1,200 人から 650 人に減少、高齢者数、独居高齢者数は松江市内最多である。

古志原公民館は、昭和 56 年に創立、平成 2 年に現在の新館が竣工した。指定管理者制度による公設自主運営の公民館として、安全・安心、福祉、子育て・青少年育成などの地域課題を「目的縁」として地域縁と融合させた取組を進めている。

## 2 事業の概要

### (1) 事業のねらい

地縁、血縁関係の少ない地域における地域力醸成のため、地域縁に加えて目的によって人々が繋がる目的縁を大切にし、強化する。高齢者が多い地域であることから、高齢者福祉は大きな地域課題であるとともに、高齢者の地域活動参加は地域力醸成にとって欠かせない力である。しかし、高齢者のクラブなどへの入会率は低く、向こう三軒両隣で支え合う関係も十分ではない。

一方、子どもたちを地域で育てる環境も十分ではない。このようなことから、高齢者の子ども支援に関する各種事業を展開することにより、高齢者の居場所をつくとともに、子どもの健全育成につなげ、親世代の社会活動参加を促し、世代間の交流を進める。

このような事業推進によって地域住民の連帯を生み出し、地域力の向上を図る。

### (2) 具体的な取組（参加者数は期間中の延べ人数）

#### ア 竹工作・ソーメン流し（8月4日～5日）

小学生 36 名、中・高校生 20 名、成人 6 名、  
高齢者 18 名参加

夏休み子ども塾「宿泊研修」に合わせて、竹工作、ソーメン流しを体験した。高齢者 10 名が竹伐り、運搬、竹樋づくりなどの準備、当日は、テント設営、竹コップと箸の製作指導、炊飯活動支援などを行った。

製作したコップと箸を使って流しソーメンを食べたほか、キャンプ期間中の食事に使用した。高齢者の巧みな竹工作の技に学ぶことが多かった。



#### イ 子ども将棋教室（8月6日から10日までの5日間）

小学生 113 名、成人 18 名、高齢者 10 名参加

子どもの将棋教室を初めて開催した。指導者は 20 歳の若者だったが、たくさんのお親子が学んで、楽しむことができた。教室が終わった後も継続の希望が強く、9月から毎週自主サークルとして続いている。

**ウ LED行灯作り教室（8月17日）**

小学生22名、中・高校生12名、  
保護者8名、高齢者18名参加

木の板に竹を曲げた骨組みを立て、絵を描いた紙を貼りつけた行灯を製作した。その中には、LEDライトを入れた。高齢者に材料の準備をしてもらい、子どもと保護者が組み立てた。

思い思いの絵を描いてライトを付けると絵が浮かび上がって綺麗に見える、親子は大喜びだった。



LED行灯製作

**エ 子ども囲碁教室（8月20日から24日まで）**

小学生55名 高齢者18名参加

公民館の囲碁同好会の会員が講師となって小学生の手ほどきをしている。何年も続けて参加してかなり上達した子どももいて、高齢者と対局したりして楽しんだ。保護者も一部参加して学んだ。

**オ 三世代交流ハゼ釣り（10月6日）**

親子38名 中・高校生12名 成人・高齢者20名参加

秋の一日、宍道湖の自然を満喫しながらハゼ釣りをし、から揚げにして食べた。親、祖父母、子どもと三世代そろって参加する家族も多く、中・高校生が手助けする姿も見られた。

**カ サツマイモ栽培と焼き芋（6月～11月）**

子ども280名、高齢者10名参加

公民館の畑で6月に600本のサツマイモの苗を植え、10月に子ども広場児童が収穫した後、高齢者が焼き芋にし、幼稚園児、小学校1年生、児童クラブ児童、子ども広場児童などに提供した。高齢者は簡易の小屋、焼き窯の設置をした後、焼き芋を4回実施し、子どもたちの喜び様子に満足感を十分に味わった。



芋ほり

**キ 昔の遊び教室 [幼稚園]（11月29日）**

幼稚園児80名 高齢者10名参加

幼稚園児に昔の遊びを教える催し。高齢者がお手玉、竹馬、けん玉、コマ、カルタ、紙飛行機などを教えながら一緒に遊んだ。中には高齢者手作りのコマや竹馬もあった。参加した高齢者は、夢中で遊ぶ子どもたちに目を細めていた。

**ク 親子しめ縄教室**

(12月5日) 【雑賀小学校】 5年生34名

(12月24日・25日) 【古志原公民館】 親子72名 高齢者18名参加

しめ縄教室は、8回実施のうち3回が小学生向けであった。わらを購入し、整理したり叩いたりする準備に3回、延べ16人の高齢者が汗を流した。

雑賀小学校では、30名を超える5年生の子どもたちに6名の高齢者が指導。2時間でなんとか飾れるしめ縄を製作することができた。



親子しめ縄作り教室

公民館では2日間にわたって製作教室を実施した。定員60名を大きく超える72名の参加者で会場はいっぱいになった。祖父母、親同伴の事業であったため家族ぐるみ、三世代協力し合って製作した。しめ縄の作り方や飾る意味などの伝統文化を学んだり世代間の交流を深めたりすることができた。

#### ケ 児童福祉施設幼児との交流（毎月第2水曜日：午前中）

幼児70人 布の絵本会員20人参加

地域にある児童福祉施設の幼児と、公民館「布の絵本教室」会員の交流を毎月1回、年間10回実施した。会員2人が手作りの布の絵本や布のおもちゃを持って施設を訪問、幼児と交流した。布で作った絵本やおもちゃは、肌触りも良く、美しいので幼児には大変適しており、心地よく遊ぶことができた。

日頃交流の少ない幼児にとっては貴重な機会であり、毎月の交流の機会を待ち望むようになった。地域を挙げて施設の子どもを支援するうえでこの活動は模範的な例となっている。

#### コ 抹茶教室（1月12日）

児童17名 保護者6名 講師2名

子ども広場の新春を飾って抹茶のお点前を学ぶ教室を開催した。緋毛氈の上の座布団に神妙に座る子、和服を着てお茶を運ぶ子と手分けして、お茶のいただき方の作法を学んだ。

### 3 事業の成果と課題

#### (1) 高齢者の活動が一層活発になり、地域の活性化につながった。

公民館を拠点に活動している多くの高齢者の中でも、古志原ボランティアの会、布の絵本サークル「布遊」の活動は活発で、地域内外で高い評価を得ている。それらの団体と公民館が連携し、子ども支援を軸に活動を強化したことはそれら団体の活動意欲を一層高めつつある。

今後、それらの活動を質量ともに拡大していくことを通して、高齢者の社会参加活動を一層広げていくことが課題である。

#### (2) 幼稚園や学校の支援につながった。

古志原幼稚園の昔の遊び教室、雑賀小学校のしめ縄づくりなど学校が計画した事業への協力により、学校の負担軽減につながった。

また、古志原小学校ではこれまで学校を通して行ってきたしめ縄作り教室を、公民館を中心に実施したことで、学校の負担軽減になった。

(3) 伝統文化の伝承に役立ち、達成感を味わうことができた。

しめ縄づくりでは、松江歴史館、風土記の丘、厚生センター、他地区の小学校などからの依頼も受け、計8回にわたって実施した。わらを購入、整理し、叩くなどの準備には手間がかかったが、計画的に実施できた。指導できる人数を増やし、参加者に個別に指導できる体制で臨んだ。正月にできたしめ縄を飾って喜び、今後毎年参加したいという親子が多かったことなどは、高齢者にとって達成感のあることであった。

(4) 技術の伝承を通して高齢者が生きがいを感じた。

竹を使った工作教室を数回行った。竹の切り出し、運搬は高齢者にとってかなりの体力を必要とした。特に、やぶの中から切り出す作業は重労働だった。適当な長さに切り、油抜きなどの準備をし、竹コップ、箸、行灯などの製作に使った。竹樋を流れるソーメンを作ったコップ、箸で食べたことは、身近な材料を使った物づくりの文化を伝えるうえでよい体験になった。



竹の切り出し

LED行灯製作は初めてであったが、材料の準備が適切であったこと、保護者同伴の児童が多かったことなどから、スムーズな運営ができた。出来上がった行灯にLEDの灯をとると、美しさに感動した子どもが多かった。

#### 4 今後の方向性

地域力の向上は、住民が目的意識の共有を基に、自ら参加する意識をもち、協働で課題解決に取り組む目的縁強化によってできると考えられる。そのため、社会・地域課題を目的として共有し、住民同士の縁を強く、幅広く結びつけていくことが必要である。

高齢者の地域活動参加は、地域力を高めるうえで重要であり、一層の推進が求められる。そのためには、地域の発展にとって価値ある活動を質・量ともに高めていくことが必要である。

高齢者が子どもの健全育成の一端を担うことは、子どもたちにとって有意義であるばかりでなく、高齢者にとっても生きがいとなる。そして、保護者にとっても望むことであり、そのような高齢者の姿は将来の目標にもなる。

世代間交流の事業を数多く継続的に推進することは、やがて子が親になり、親が高齢者になったとき、同じようにできる可能性が高まることであり、地域力を高め、循環型社会を構築することにつながると考えられる。



今後、高齢者の参加を一層促す事業を推進するとともに、世代間交流機会の提供を継続し、地域縁と目的縁の融合を推進したい。